

このエリアの2つの門は、高位の客のために設けられた。伊達藩の藩主と皇室メンバーはより大きな御成門を使用していたが、彼らの付き添いの武士はそれほど大きくない中門を入口としていた。位の違いは、門の建築に表れている。御成門は陶磁器の瓦で覆われた入母屋造であったが、中門はより単純な切妻屋根と柿葺が使われていた。御成門は薬医門と呼ばれる形式で、正面の本柱2本と背面の小さい柱1対により支えられているが、中門の中央の屋根の下に2本の本柱には、両側に小さい柱が2本ずつ付いている。

(四脚門)

門の西側の壁はドラム壁（太鼓塀）である。壁の中心には緩く石が詰められており、壁を叩くと低い太鼓のような音が鳴る。